

2024
Season

明治安田 J1 LEAGUE

2024明治安田J1リーグ 第14節
@ 駅前不動産スタジアム

07



MDP

Sagantosu

MATCHDAY PROGRAM

5.15 (水)

追

19:00 KICK OFF
vs 川崎フロンターレ

© KAWASAKI FRONTALE

「サガン鳥栖でタイトルを獲りたい。その思いはより強くなった」。昨年終盤、藤田直之はタイトルへの思いをそう言葉にした。プロサッカー選手である以上、タイトルを勝ち取ることへの思いは持っている。ただ、その思いを強くする要因がさまざまに重なってきているのだ。サッカー選手としてのキャリアが終盤になってきたことに加え、同じ九州の福岡が昨年、ルヴァンカップを制覇したことで鳥栖サポーターのことを慮ることもあった。自分自身がプロサッカー選手としてのキャリアをスタートしたクラブに一昨年、帰ってきた以上、タイトルという目に見える形で恩返ししたいという思いもある。そして、何より昨季は自分自身に不甲斐なさを感じる悔しいシーズンだった。リーグ戦22試合に出場したものの先発はわずかに6試合に留まった。昨季の終盤、チームが勝利から遠ざかっている中で先発した試合後、チームの流れを変えることができなかった自分を「情けない」と評したこともあった。だからこそ、今季はより自分自身に目を向けた。シーズン前に語った思いは「とにかく試合に出たい。試合に出てチームの勝利に貢献したい。その思いだけです」というものだった。

今季の第9節、鹿島戦では通算400試合出場を達成。そのうち、231試合が鳥栖の選手として記録したものだ。「キャリアをスタートしたクラブで節目の試合を迎えることができうれしいですし、節目の試合はこれまで自分に関わってくれた人たちに感謝の気持ちを再確認する良い機会になる」。一人だけでは積み重ねることができなかったであろう400という偉大な数字。振り返ると自分自身が支えられてきたことを痛感する。藤田がサポーターとともにタイトルを獲得することを望んでいるようにサポーターもまた藤田とともにタイトルを獲得することを望んでいる。苦しい状況でも藤田は決して下を向かない。感謝の気持ちを胸に鳥栖を背負って戦う覚悟は誰よりも強い。

感謝への
強い覚悟

MF 14

藤田 直之

Naoyuki FUJITA

MLOSITEC
Co., Ltd

エムロジテック 株式会社

presents

エムロジテック スペシャルマッチ
～物流の困ったをよかったへ～

物流をサポートし、お客様と共に成長し続ける企業へ